

## 令和3年度第1回愛媛県公立大学法人評価委員会の会議結果

- 1 会議の名称 令和3年度第1回愛媛県公立大学法人評価委員会
- 2 開催日時 令和3年7月26日（月曜日）18時00分から19時30分まで
- 3 開催場所 愛媛県庁第一別館3階第3会議室
- 4 出席者 委員5名、事務局5名、法人8名
- 5 審議事項（議事）
  - 令和2年度業務実績報告等について  
（公立大学法人愛媛県立医療技術大学に対するヒアリング等）
    - ・令和2年度業務実績報告
    - ・財務諸表（案）
- 6 審議の内容（全部公開）
  - 令和2年度業務実績報告等について  
公立大学法人愛媛県立医療技術大学の令和2年度業務実績報告書、財務諸表（案）に関して、委員から法人役員に対しヒアリングを実施した。

### 【主な質疑等】

#### (1)令和2年度業務実績報告 (教育・研究)

- 学内競争的研究助成費560万円を確保し、7件を採択したということは、7件で全額使用したということか。  
また、審査体制はどうなっているのか。  
⇒7件の申請があり、全件を採択したが、申請額が予算額をオーバーしていたため、内容を吟味し、経費削減や機器の共同利用といった指導をして、予算の中で研究支援ができるよう調整した。  
審査体制は、申請書提出後、プレゼンを実施し、複数の審査委員が審査することとしている。
- コロナの影響で実習ができなかったり、臨床からスタッフに来ていただいたり、工夫していると思う。卒業生に対しては臨床側が責任を持ってフォローをしなければならないと思っているが、1、2年生に対しての支援はどのようにしているのか。  
⇒学年による影響は、今年の4年生はほとんど現場に行けていない。卒業生の話では状況対応の力が育っていないという話を聞いている。1、2年生だが、友人関係ができる前に遠隔授業になり、対人関係で孤独に陥りがちなので、オンライン上でも先輩と繋がりを持てるようにした。（対面授業が始まって）今、その影響を取り返しているところである。
- 去年、今年授業はリモートが多かったと思うが、ライブ、それともオンデマンドで

したのか。遠隔授業をするなら、オンデマンドよりはライブ、できれば対面授業がいいと思う。

⇒昨年度、前期は対面授業が4割、遠隔授業が5割で遠隔授業はリモートとオンデマンドを授業によって使い分け、後期は対面が8割、遠隔が2割である。今年は今のところ対面授業ができています。

#### (県内就職率等)

○出願率と成績とは連動性があるのか。

また、受験倍率が毎年高い低いと波になっているが、これはどういった理由があるのか。

⇒受験倍率が隔年ごとに推移している点については、大学では隔年現象という言い方をしますが、前の年の倍率が高いと敬遠して、受験を控え、倍率が低いと行けるのではないかと考えられて受験者が増えるのではないかと分析している。

また、受験倍率の高い時と低い時の学生のレベルには、違いはないように思う。

○県内就職率と県内出身者の連動性はあるのか。

連動性があれば、県内の受験者を増やすことがいいのではないかと。

⇒ここ3年ぐらいいは県内出身者の1～2割が先端医療を学びたいということで県外の都会の大学病院へ出ていくことがあったが、8割ぐらいいは地元で就職している。

県内の受験者を増やすことが大事だと思っている。これからは入試制度を見直すことも必要ではないかと思っている。

○県内就職率がすごくよくなっているが、どのように考えているのか。

⇒大学での努力がやっと実を結んだのだったらいいが、新型コロナの影響はあるかもしれない。こういう状況の中では親御さんが地元に残ってほしいということがあったのかもしれない。

大学では地域医療に目を向けてもらう機会として、南予地域の病院見学を実施している。すぐに就職に結びつかなくてもUターンして帰ってくることに繋がっていくことを期待している。

#### (学生・教員の確保)

○教員の確保はどの大学も課題になっていると思うが、雇用形態を変更して確保するようなことはしているのか。

⇒臨床検査の方は幸い採用できている。また、看護も全国的には教員不足ではあるが、採用できているので、定年延長等の形を取らなくてもいい状況である。

○子供の数が減っていく中で、受験生の確保のため、工夫していることはあるのか。

⇒WEBオープンキャンパスやCM、プロモーションビデオを活用して大学をしっかりとPRしたいと思っている。県内の看護系大学と連携して愛媛に根差す人材育成を推進したいと思っている。

⇒情報発信というのは個別ではなく地域全体で取り組んでいかなければならないことだろうと思っている。地域で協力体制をする際には呼びかけをさせていただければと思う。

(国家試験合格率)

○高学年の生徒に対して、実習とは別に国家試験に対する受験勉強の指導はしているのか。

また、不合格だった生徒に対してのフォローはあるのか。

⇒学生と教員とで国試対策委員会を作り、出題傾向や合格率、模試の結果を分析して対策をしている。

不合格者のフォローは県外に帰った学生は地元で勉強をするのかを確認して希望があれば、模試を在學生と一緒に受けている。翌年には合格できるように進められていると思う。

(2)令和2年度財務諸表(案)

○貸借対照表の資産見返負債はどういった要因によって増減するのか。

⇒資産見返負債は、運営費交付金、補助金、寄付金を財源として取得した固定資産の未償却残高を計上している。これら固定資産は、償却完了前に処分や目的外使用すると返還の必要が生じるため、大学法人会計上、未償却残高を資産、負債の双方に計上することとされている。

資産見返負債は、これら固定資産の当該年度の取得額が、これら固定資産全体の減価償却額を上回った場合は増加し、下回った場合は減少する。

[事務局]

保健福祉部社会福祉医療局

保健福祉課調整管理係

TEL 089-912-2381

FAX 089-921-8004